

第82回 日本臨床外科学会総会

会 長 内山 和久 (大阪医科大学 一般・消化器外科学教室 教授)
事務局長 田中慶太郎 (大阪医科大学 一般・消化器外科学教室 専門教授)
廣川 文鋭 (大阪医科大学 一般・消化器外科学教室 診療准教授)

2020年10月29日(木)から31日(土)に第82回日本臨床外科学会総会を開催しました。当初は大阪国際会議場と隣接するロイヤルホテルを利用していたのですが、新型コロナウイルス(COVID-19)の影響で完全WEB開催となりました。本学会は、例年演題数3,500~4,000、参加人数5,000~7,000人規模の、日常的な医療から高度な医療までを幅広く網羅した大規模な外科系学会です。当教室との縁も深く、過去には岡島邦雄名誉教授、谷川允彦名誉教授も主宰され、3度目の開催となりました。

メインテーマは、「外科学のパラダイムシフト—継承と創造」と掲げました。諸先輩外科医が構築された外科の概念と手技を継承し、我々以降の若い世代での斬新なエビデンスの創出を期待したもので、約2年前から準備に取りかかりました。概ね順調でしたが、昨年末からのCOVID-19の襲来により事態は一変しました。

最初の問題は、演題募集でした。この春から夏にかけて開催された多くの学会はすでに演題募集が終了していましたが、本学会においては、演題募集開始が緊急事態宣言発令の4月上旬からと最悪な時期と重なり、その当時は「演題登録?」「学会ホントに開催するの?」といった雰囲気の中で演題確保には困難を極めました。我々としても感染拡大の中で他の施設に演題をお願いするのも憚られました。医

局員一同が「開催形式はどうであれ、外科医の技術、知識習得の研鑽を積むため最新の知見を交換し合う機会は維持すべきである」との思いを内外にアピールすることに終始努め、最終的には2,183演題と予定の半数以上は確保することができました。

開催形式については、現地開催、完全WEB、ハイブリッド(現地+WEB)開催の選択でかなり悩みました。とくに大規模な学会のWEB開催経験がないために、費用の問題に加えてセッションの進行が円滑に行くかどうかの不安が強かったのですが、当時のコロナ感染拡大状況を鑑み、最終的に開催3か月前に現地開催を諦め、完全WEB開催に舵を切りました。やや規模を縮小し、厳選した92のセッションを6つのLive配信ブース(WEB会場)に振り分け、ZOOMでの座長と発表者8~10名による完全WEB配信という形としました。さらに2020年11月30日まで、Live配信できなかったセッションを含めて全ての2,183演題をオンデマンド配信としました。

最終的に約4,800人余りの先生方にご参加いただきました。WEB討論でも発表や質疑応答ともに予想以上にコミュニケーションが得られ、「外科医減少に対する戦略」「女性医師の問題」「外科医の働き方改革」「若手外科医の教育」など、現在の日本外科医学界が直面している課題についても活発な討論がなされ、大変実りあったと実感しております。

後日、今後の学会のあり方について討論する機会があり、その中ではWEB開催のメリットも多く、特に若手、女性、遠隔地の多忙な医師にとっては、どこからでも、何時でも、何度でも視聴できるという点で好評を得ました。今後、社会でIOT化が加速すると、Web学会スタイルが標準となる日が来るかもしれません。私としてはその入口に立てたことを素直に喜びたいと思います。しかし、最新医学の研究を議論すべき学会の意味からいえば、face to faceの討論が人とのつながりを強固にし、重要であることを再認識しました。

最後に、本学会を主催するにあたり、大阪医科大学医師会の皆さまには多大なご支援を賜り厚く御礼申し上げます。誠に有り難うございました。

